

# 【釧根地域の農業概要】



大型機械による牧草収穫作業(釧根地域)



広大な放牧ほ場(釧根地域)

## ○釧根地域の気象概要

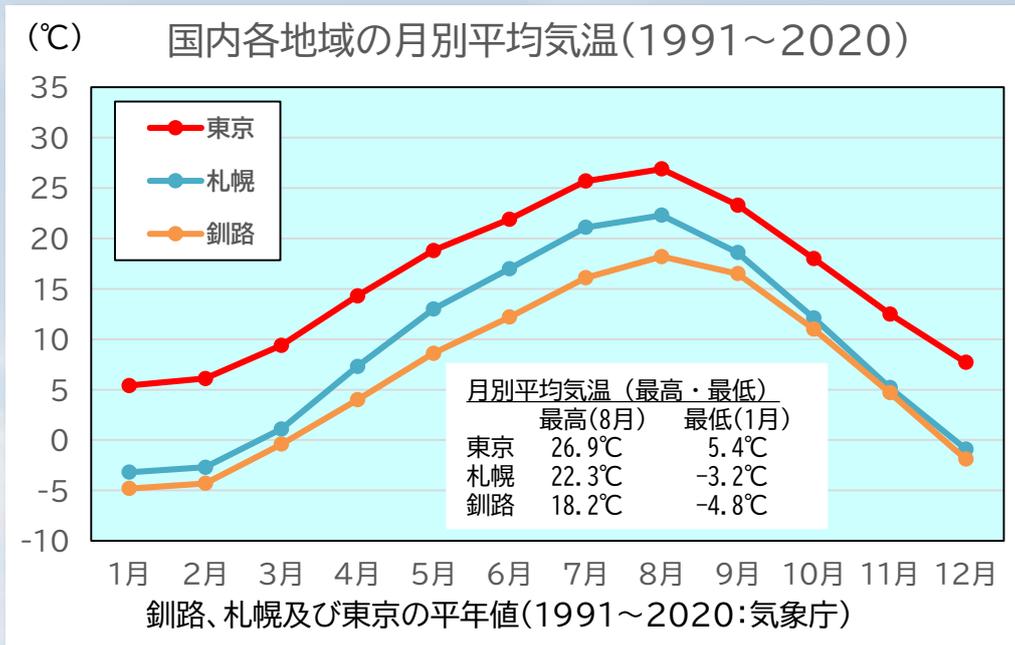
釧路・根室地域は、北海道でも特に寒冷な地域です。太平洋側に面したエリアは、海流の影響により春から夏にかけては海霧の発生に伴う冷涼多湿な日が多く、8月の釧路の平均気温は18.2℃となっており、東京の26.9℃と比較して約9℃も低く、夏季も冷涼な地域となっています。

なお、気温の低い要因となる霧の発生は、釧路では年間100日を超える年も珍しくありませんが、内陸部では霧の影響が少なく、夏期の平均気温も海岸部よりも高くなります。

冬期間は、大陸性高気圧の影響で降水量は少なく、晴天の日が続きますが、1月の釧路の平均気温は-4.8℃となっており、札幌の-3.2℃と比較しても寒冷な地域です。降水量は札幌の108.4mmに対して釧路では40.4mmと4割程度です。

# ①釧根地域の気候と土壌

釧根地域は、国内、北海道の中でも冷涼です。

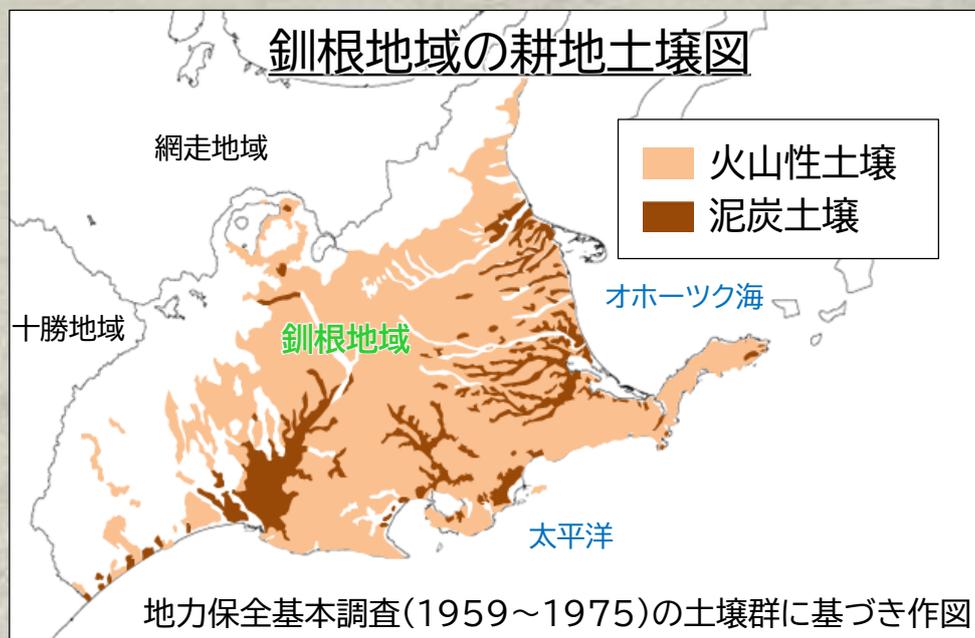


釧根地域の土壌は、火山性土と泥炭土が多い。

## ○釧根地域の土壌分布

本地域は、北部の比較的標高の高い千島火山群を境として、十勝地域・網走地域に接し、南部・東部の太平洋、オホーツク海に面して、根釧台地と称される標高20~80mの広大な丘陵地帯になっています。

土壌は、主に摩周岳、阿寒岳に由来する火山性土が8割と大部分を占めており、河川沿い及び海岸付近の低地に、泥炭土が1割強、低地土が1割弱分布しています。



## ②釧根地域農業の概要

### 釧根地域の農業は酪農に特化 (耕地面積・総農業産出額の約9割を占める)

#### ○釧根地域の耕地面積

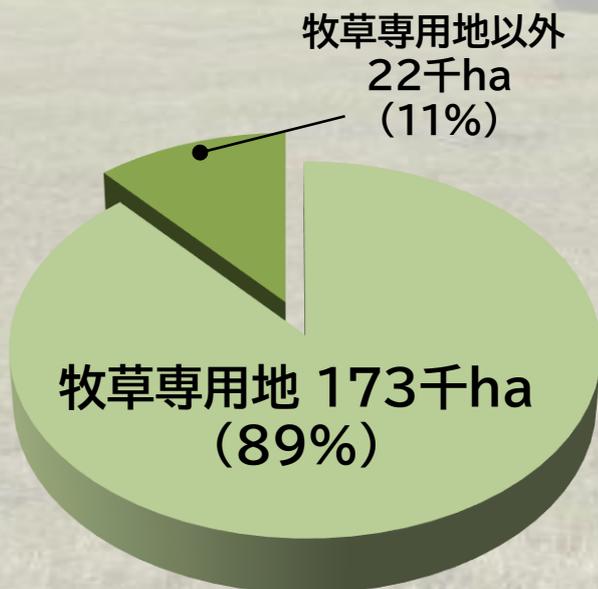
本地域の耕地面積は、昭和30年代から拡大を続け、昭和60年には現在の面積と同じ約20万haとなり、現在は北海道全体の19%を占めています。

#### ○釧根地域の農業

本地域の冷涼な気象条件が牧草の栽培に適したため、畜産を主体とした農業に転換を図り、現在では耕地面積の89%が牧草専用地となり、酪農に特化した農業が展開しています。

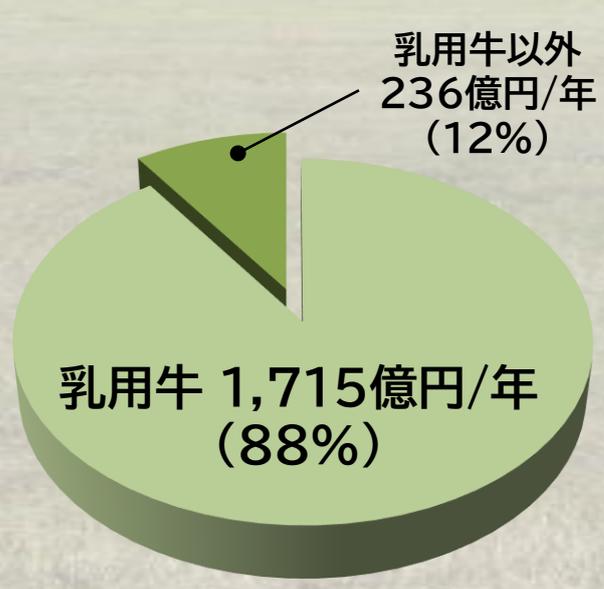
このため、酪農が本地域の主産業となり、総農業産出額が1,951億円と北海道の15%を占めており、その中でも乳用牛が88%と非常に高いことが特徴となっています。

#### 経営耕地面積(R2) (194.8千ha)



資料:2020年農林業センサス

#### 総農業産出額(R4) (1,951億円)

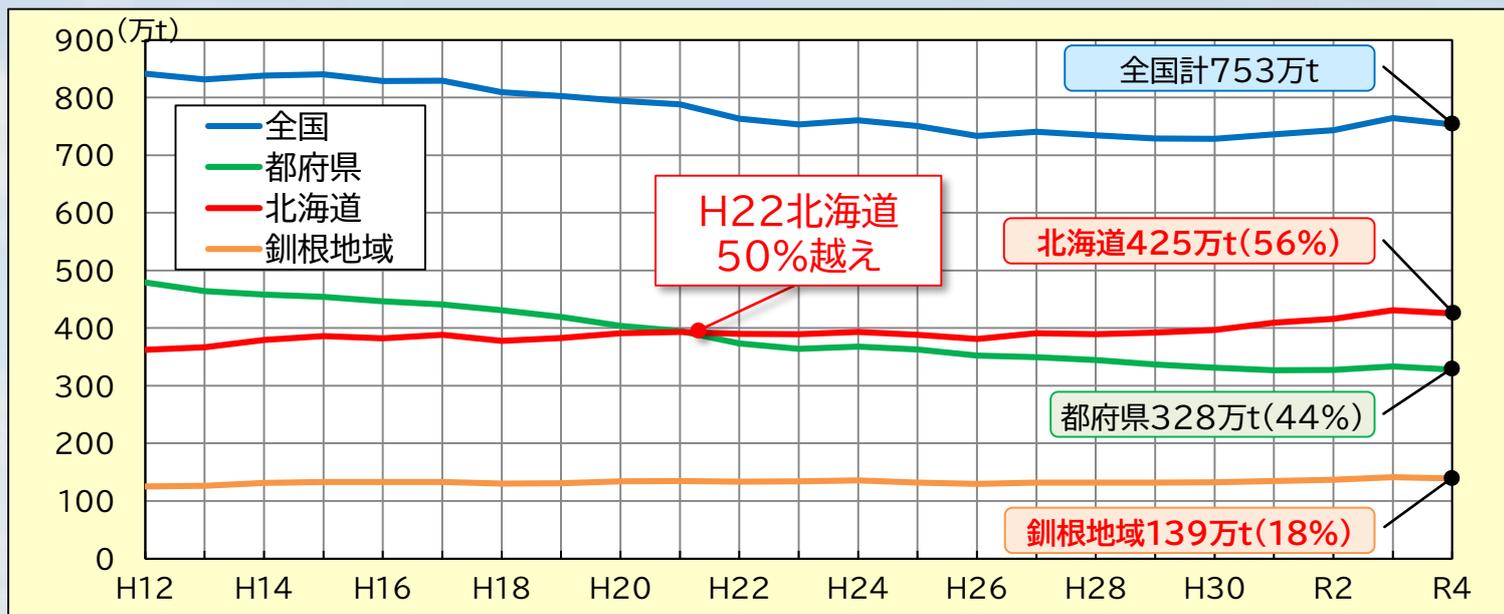


資料:令和4年市町村別農業産出額(推計)

# ③釧根地域の生乳生産

## 全国の生乳生産量の推移 (北海道の役割が大きくなっている)

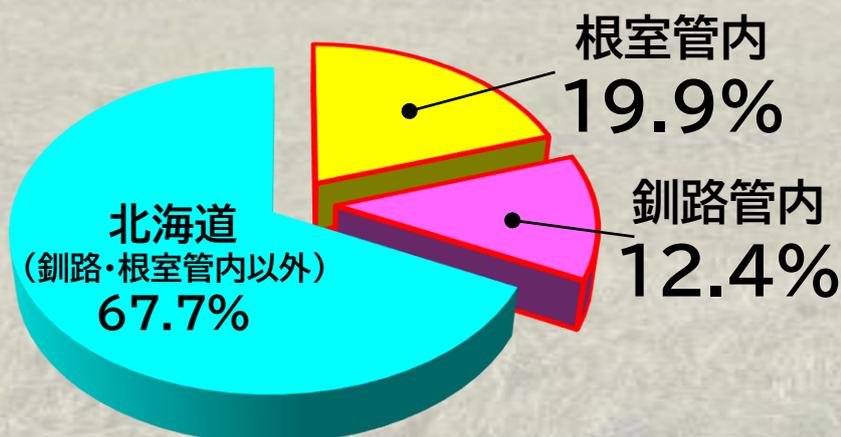
全国の生乳生産量に占める北海道のシェアは、平成22年度以降50%を超え、令和4年度には約56%まで拡大しており、北海道の役割が大きくなっています。



資料:北海道農林水産統計、牛乳乳製品統計、ホクレン調べ

## 北海道と釧根地域の生乳生産量の割合(R4) (釧根地域の占める割合は全国でも北海道でも大きい)

本地域の生乳生産量は、道内の32%、全国の18%を占めており、北海道内のみならず全国的に見ても重要な生産地帯となっています。



資料:生乳受託乳量(R4年ホクレン調べ)

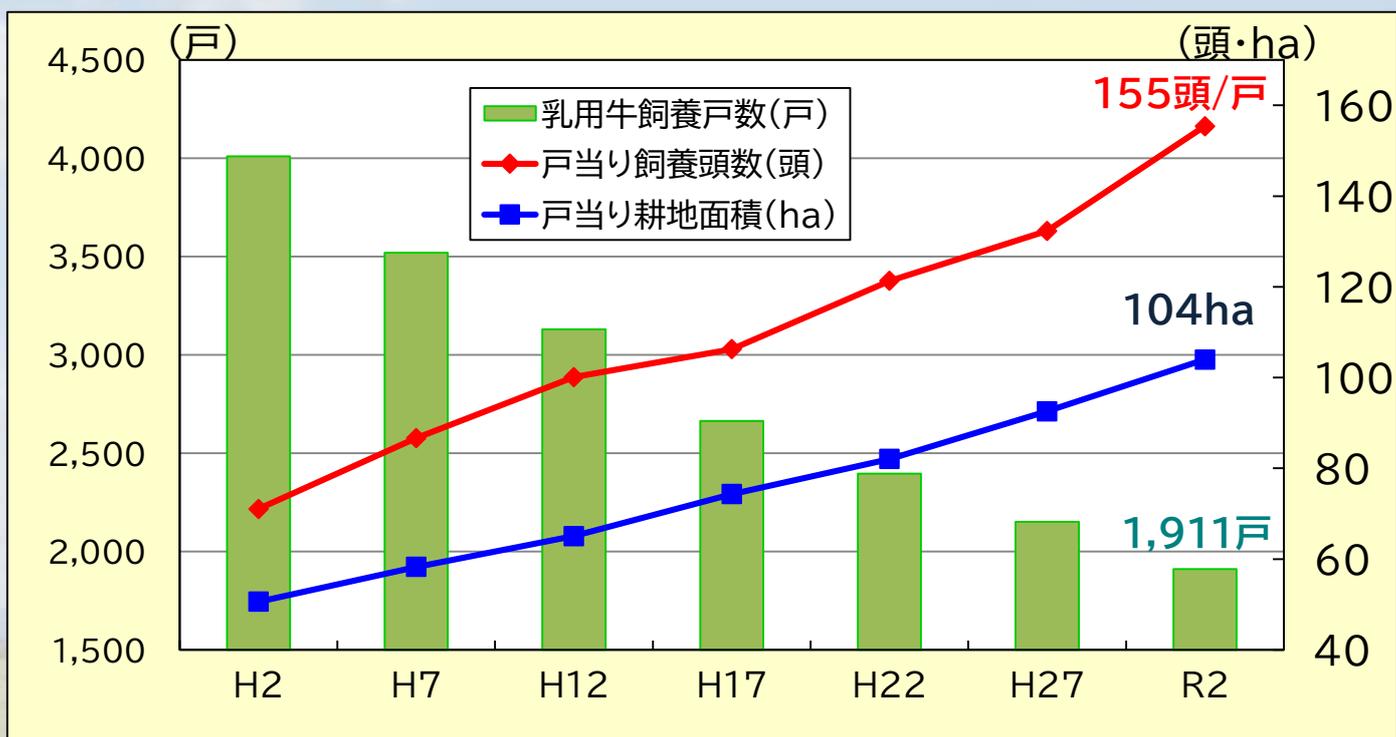
# ④釧根地域の酪農経営規模

## 釧根地域の乳用牛飼養農家の経営規模

(飼養戸数の減少に伴い、戸当り耕地面積・飼養頭数が拡大)

本地域の乳用牛の飼養戸数は、令和2年時点で1,911戸と北海道の34%を占めています。

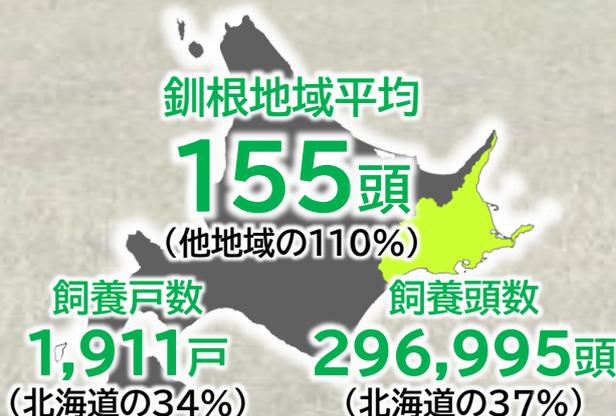
飼養戸数が減少する中で、地域の担い手による経営規模の拡大や農地継承が進み、戸当りの飼養頭数及び耕地面積が拡大しています。



資料: 農林業センサス

## 乳用牛の飼養頭数(R2)

本地域の戸当り飼養頭数は、令和2年時点で155頭と北海道他地域の110%になるなど、豊富な土地資源を生かした酪農経営が営まれています。



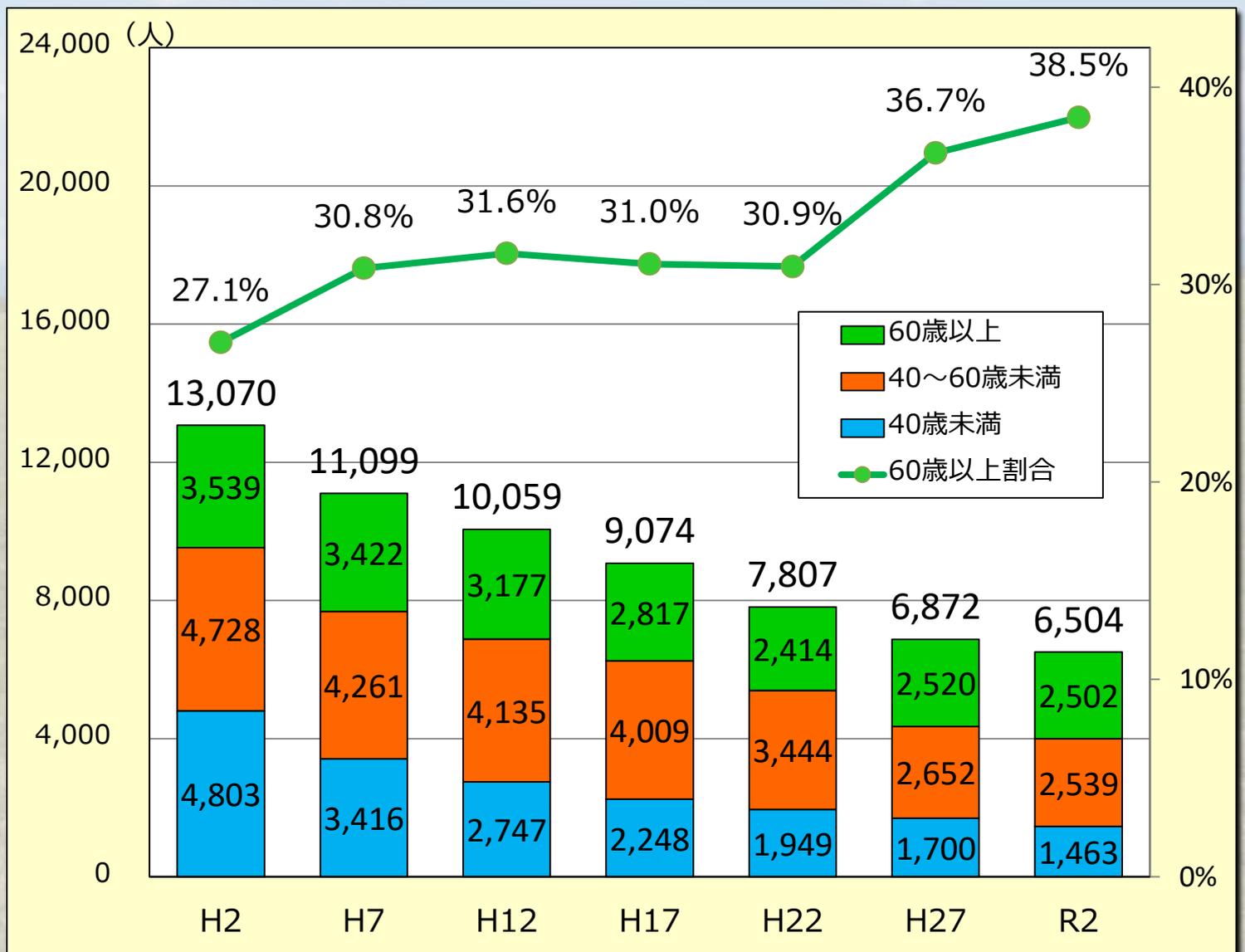
# ⑤就農者の高齢化と担い手不足

## 釧根地域の農業就業人口の推移 (全体的な減少傾向と高齢化)

本地域の農業就業人口は、令和2年時点で6,504人となっており、平成2年の13,070人から30年間で約半分まで減少しました。

就農者の年齢構成割合にも変化が見られ、40歳未満が減少し、60歳以上が増加傾向にあります。

就農者の高齢化や担い手不足は、離農跡地の活用・地域社会の維持なども含めて深刻な問題であり、農場リース事業や新規就農者対策など、新たな担い手の育成が重要となっています。



資料：農林業センサス

# ⑥農業生産法人、コントラクター

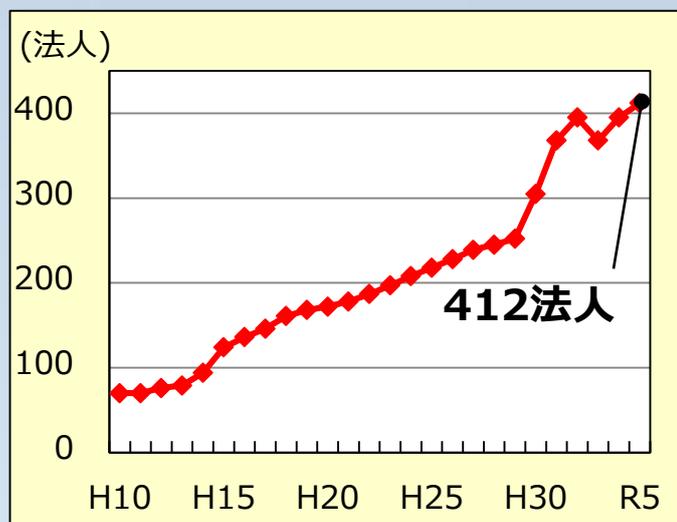
## 釧根地域の農業生産法人数

(経営規模の拡大や多角化、担い手対策として増加傾向)

### ○農業経営の法人化

地域の農業生産法人は、令和5年時点で412法人、北海道(4,095法人)の約10%にあたります。

農業生産法人化は、経営規模の拡大や多角化、高齢化と担い手不足に対応した大規模経営の展開により、離農跡地の活用や農作業の引き受け、雇用の創出など公益的機能の発揮が期待されています。



資料:北海道農政部  
「北海道の農地所有適格法人の概要」

## 釧根地域のコントラクター数

(増加した時期を経て、近年は現状維持で推移)

### ○コントラクターの活用

地域のコントラクターは、令和4年時点で52組織、北海道(333組織)の約16%にあたります。

コントラクターの活用により、農作業の分業化がはかられ、農業従事以外の時間が生まれるなど、営農面だけでなく生活面でも大きなメリットが得られます。

なお、平成11年の家畜排せつ物法の制定を機に、肥培管理の委託化の需要が増え増加しましたが、近年は農業生産法人が近隣農家の作業を受託するなどの機会も増え、50~60組織で推移しています。



資料:北海道農政部  
「コントラクター実態調査」

### コントラクターとは？

農作業機械と労働力などを有して、農家等から農作業(酪農ヘルパー除く)を専門に受託する組織(機関・団体等)です。

# ⑦TMRセンターの取組み

## 阿寒・釧路TMRセンターの事例紹介

釧路地域においても、JAや酪農家が共同で出資・運営する自給粗飼料を主体としたTMRセンターの設立が相次いでおり、令和5年時点で25組織が稼働しています。

平成20年より稼働している「阿寒・釧路TMRセンター」は、酪農経営での過重労働の軽減と生産コストの縮減を目指し、JA阿寒が主体となって地域の酪農家で構成される組織として運営されています。

同TMRセンターの取組みにより、構成員の営農作業効の率化、良質粗飼料の確保が図られ、機械経費の削減、労働時間の節減、乳量の増加などを実現し、経営の安定・向上に寄与しています。

### TMRセンターの主な作業状況

【採草作業】



【サイレージ作り】



【TMRの圧縮真空梱包機】



### 組織概要

令和6年10月現在

【稼働年月日】 平成20年8月1日(阿寒)

平成22年8月1日(釧路)

【構成戸数】 21戸(阿寒)、8戸(釧路)

### 業務内容

- ・本組織の構成員農家が個人管理していた飼料畑(草地)を一元に管理。(スラリー・堆肥、尿散布などの肥培管理、牧草収穫・草地更新などの一連の作業を受託。)
- ・生産された飼料をミキシング(TMR)し、圧縮真空梱包されたものを各戸まで配送。

### TMR(Total Mixed Ration)とは？

乳牛の養分要求量に合致するように、牧草・サイレージ等の粗飼料、トウモロコシや大豆などの濃厚飼料、ミネラル、ビタミン等をバランスよく混合した飼料の名称です。

→ TMRセンターは  
いわば牛の給食センターです。

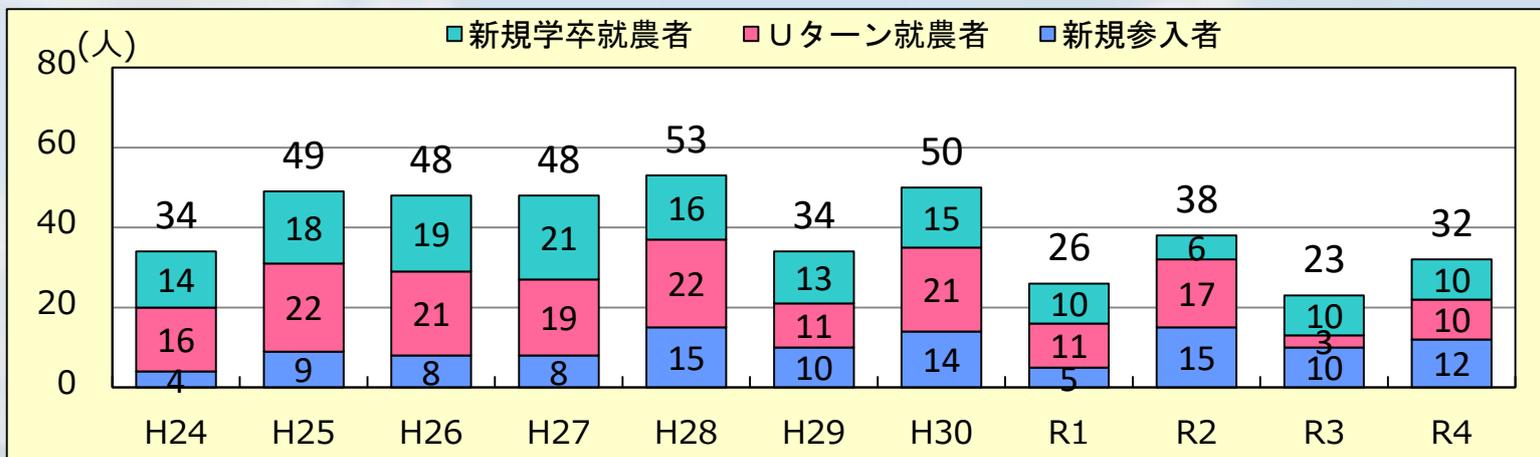
# ⑧新規就農者支援の取組み

## 釧根地域の新規就農者数 (全体的には一定数の新規就農を継続)

### ○釧根地域の新規就農の動向

地域の新規就農者は、関係団体の取組みにより、新規学卒就農者、Uターン就農者、新規参入者ともに変動があるものの、一定数の新規就農が継続しています。

ただし、酪農経営を開始する際には相当の初期投資が必要とされることなどから、新規参入者を対象とした受入れ体制の充実が求められています。



資料：北海道農政部「新規就農者実態調査」

## 釧根地域の新規就農者の受入れ体制 (新規参入者を対象とした酪農研修施設の設置)

### ○釧根地域の新規就農支援の状況

地域では新規就農対策が進められ、新規参入者を対象とした酪農研修施設の設置などの受入れ体制を整備しています。

別海町酪農研修牧場では、飼養管理の実践や座学など、研修生の経験の度合いにより最長3年かけて行い、毎年数組が、地域の担い手として新たな一步を踏み出しています。

(別海町酪農研修牧場)



(浜中町就農者研修牧場)



# ⑨草地の肥培管理と牧草収穫

## 釧根地域の肥培管理と牧草収穫の時期

5月上旬～下旬

スラリー散布、化成肥料散布



6月中旬～7月中旬

1番草収穫(サイレージ調整等)



7月中旬～下旬

スラリー散布、化成肥料追肥



8月中旬～9月中旬

2番草収穫(サイレージ調整等)



10月上旬～下旬

スラリー散布、堆肥散布

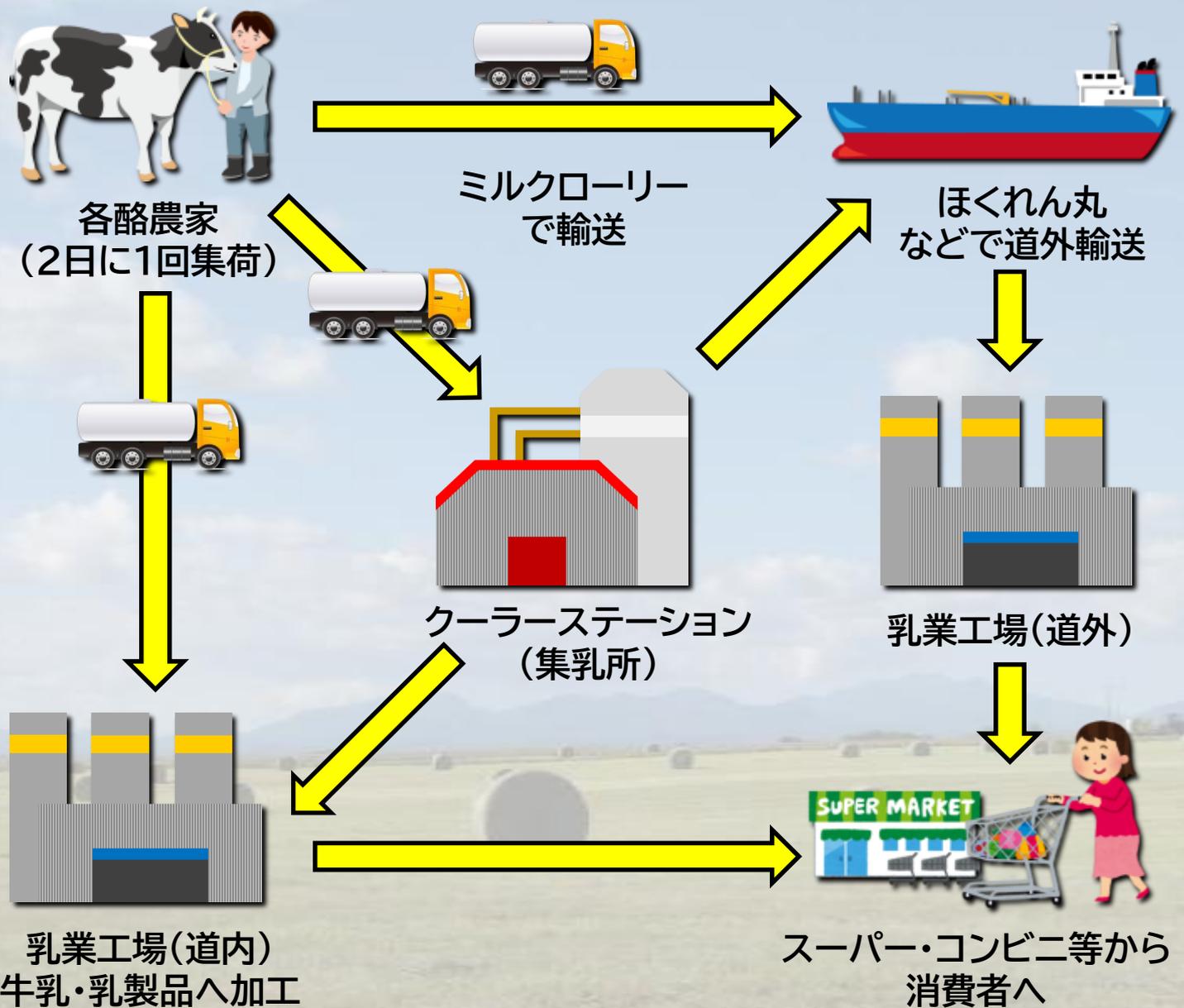


釧根地域では、広大な土地資源を活用した酪農経営が行われており、雪解けとともに牧草地の肥培管理が始まり、晩秋まで牧草収穫などの作業が続きます。

牧草地での肥培管理や収穫は、乳用牛の栄養源となる良質な飼料を確保するための欠かせない作業であり、牧草の生育時期に合わせて、晴天が続く日に集中的に行われます。このため、これらの作業時期は、酪農家にとっても重要な繁忙期となります。

# ⑩ 釧根地域の生乳流通

生乳が消費者の元にとどくまで  
(生乳の流通イメージ)



地域で生産された生乳は、酪農家から直接またはクーラーステーションなどを経由して、道内外の乳業工場に輸送され、飲用牛乳やバター・チーズなどの乳製品となり出荷されています。

道外の乳業工場には、釧路港と茨城県日立港を結ぶ「ほくれん丸」などにより日々輸送されており、首都圏をはじめとする大消費地へ、釧根の生乳が安定的に供給されています。

また、最近では、家畜経営安定法の改正(H29)により、農協系統を通さずに直接道内外の乳業メーカーに生乳を出荷する事例も増加しています。

資料名:釧根地域の農業概要  
(令和6年11月更新版)

本資料に関するお問い合わせ先

北海道開発局 釧路開発建設部 農業開発課

〒085-8551 釧路市幸町10丁目3番地

TEL 0154-24-7332

FAX 0154-24-6843

URL <https://www.hkd.mlit.go.jp/ks>